

# 出張報告書

平成27年12月4日

市議会議長 鳥居宏次 様

会 派 名 刷新クラブ

代表者氏名 京西 且哲

下記のとおり報告します。

## 記

### 1 目 的

- ① 四日市市：競輪事業について
- ② 伊勢市：スポーツ誘客推進事業について
- ③ 志摩市：宿泊・保養施設の誘致について

### 2 出 張 先

- ① 四日市市：四日市競輪場
- ② 伊勢市：伊勢市役所
- ③ 志摩市：伊勢志摩エバーグレイズ

3 出張期間 平成27年11月26日(木)～27日(金)

4 出張者氏名 京西且哲・西田武史・金子拓矢

5 てん末報告 別紙とおり

## 報告書

会派名 刷新クラブ

代表者 京西 且哲

日程：平成27年11月26日（木）

場所：三重県四日市市 四日市競輪場

調査：四日市競輪におけるナイター競輪事業について

内容： 四日市市は本市同様に競輪事業を営む自治体であり、その事業規模は平成26年度で166億円である。今回の視察目的は、その四日市競輪において行われているナイター競輪事業の運営状況の調査である。

過去において収益性が悪化し、平成18年度には4,300万円のマイナス収支を計上していた。当然、同年に競輪事業の廃止も検討されたということであるが、結局事業の継続が決まった。勿論、その継続条件として、プラス収支への転換が至上命令であったことは言うまでもない。それに対応するため、平成14年に照明設備等ナイター競輪の対応工事を終え既に開催していた事業であるナイター競輪の開催比率を翌平成19年より増やすことと、業務の包括的事業委託を民間企業に行うことを改革の二本柱として行った。ナイター競輪は競合する他場が少ないので利益を上げやすいことがあり、業務の民間委託に伴うコストカットと相まって取り組み初年度の平成19年度より即座に黒字転換し、現在に至るまでプラス収支を継続出来ている。しかし、年々ナイター競輪が増え競合相手が増える傾向にあることに加

え、来場者の高齢化も進む中、競輪事業に対する将来性に不安を感じていた。

本市においても、競輪事業そのものの将来性への不安は変わりないところである。競輪場建替えの構想も見え隠れする中、多額の費用を掛け単純に同規模の施設を建替えるより、将来の長きにわたり継続して競輪事業を行おうとするならば、施設を小規模化し建設費用を抑えることや、ナイト競輪やより費用対効果の高いミッドナイト競輪本場開催の出来るドーム型施設を検討するなど、他場との差別化と、より高収益化できる施設を検討する必要があるのではないかと考える。また、四日市競輪場では照明施設整備にあたり国の補助金を得るための方策としてリンク内にテニスコートを作ると同時に、リンク内の有効活用を図ったが、競技日程との調整やリンク内防汚の問題等から使用困難となり現在では無用のものとなっていた。本市も競輪場を建替えるのであれば、こういう細かいところにも無駄の無いように十分な検討が必要である。

なお、四日市競輪場にも本市同様近隣に霞ヶ浦会館という競技宿舎が存在する。競輪が行われ選手が宿泊する日以外は民間開放されており、有料にて宿泊できる。地域の団体や学生のクラブ団体、企業の研修等にも利用されているようであった。岸和田市においても競技宿舎を有料で貸し出し出来る体制を整え有効活用する必要がある。小さい事かもしれないが少しでも収益を上げるという姿勢が、全ての事業経営姿勢につながることはないだろうか。

伊勢市：スポーツ誘客推進事業について

説明者： 東世古幸久（産業観光部観光誘客課長）・北村貴裕（観光誘客課主事）・山口徹（伊勢市議会事務局調査係長）

内 容： 伊勢市は、平成17年に4市町が合併し人口13万人となり、今年で10周年を迎えた。観光と言う観点からは市内に伊勢神宮がある事により観光客も多い様に見えるが、実際20年に一度の遷宮で盛り上がりを見せるがそれ以外は落ち着いており、市内の旅館業組合から利用客促進の要望が有り、スポーツ等を通じた合宿には一泊300円の補助金を出す事業を行っていた。これを平成25年度より三年間の期限で一泊1000円として市内のスポーツ施設と旅館の併用のくくりで実施した所、利用団体数が年々倍増し、今や予約を入れるスペースが無くなるほどの盛況さである。本年度で終了予定のこの事業であるが、旅館業組合からの継続要望は出ているものの現時点では結論は出していない。この盛況な事業の裏には旅行会社が一役嘸んでいる事も見逃せない要因である。一方、この事業に利用される倉田山公園野球場は平成18年に竣工され、老朽化により25年度に改築。こけら落としにプロ野球のオープン戦も行われた本格的な球場である。また、伊勢フットボールビレッジは平成16年に天然芝グラウンド1面竣工されていたが、平成18年度に市長のマニフェストである「スポーツ交流誘客基盤整備」の中に「伊勢フットボールビレッジ構想」を位置づけ順次人工芝のピッチを4面竣工させている。これら5面の事業費は総額14億8千万円を要しているが、内13億円を地元業者である赤福が出資している。この球技場の横には三重県営サンアリーナが有り、来年行われるサミットのプレスセンターに位置づけられ、町お

こしの一貫としても、盛り上がっている。

ま と め： 本市にはこのような本格的なスポーツ施設が少なく、また、宿泊施設も無いに等しい状況の中、現状では決して真似のできない事業である。強いて言えば、本市の競輪場の施設であれば選手の宿泊施設も完備しているし、今やBMX競技場も有るのでこれらを利用して自転車関係の合宿や競技大会を誘致する事は十分可能であると考えます。また、伊勢市の赤福のような優良企業の育成と市とのつながりにも力を入れていかなければならないと感じる。

日程 平成27年11月27日（金）13：30～15：00

場所 伊勢志摩エバーグレイズ ディレクター 横山裕一氏

三重県志摩市磯部町穴川1365-10 0599-55-3836

調査 宿泊・保養施設の誘致について

## 調査内容

本市のまちづくりプランにおいて、重要と位置付けられているエリアには、未利用のままの公有地が存在し、活性化に向けた事業推進の妨げとなっています。

特に、本市が主体の旧港再開発事業区域内には、大阪府が所有する空地が約3haも存在し、今後の活用計画もなく放置されていることから、ベイエリアから活気がなくなりつつあります。

また、観光による集客を掲げているが宿泊・保養施設に乏しく、施策に戦略性を持たせるには困難で限界があると考えます。

したがって、公有地を含む未利用地の活用について、積極的に誘致活動を進めるべきであると考え、マスコミ等で話題になっている「Glamping（グランピング）」の先進施設を訪問し調査を実施しました。

アメリカ最大のキャンプ場チェーンKOA（Kampgrounds of America）として伊勢志摩に開業して20年になる「伊勢志摩エバーグレイズ」は、グランピング施設4棟、キャンプ施設69サイトからなるアウトドア空間です。

キャンプ場のサービスを高級ホテル並みにし、日本人がもつ従来のアウトドア施設とは全く違う高い満足を楽しめるメニューが設定されています。

価格（2名）は、テント・ガーデナで3,500円～7,600円、グランピン

グが35,800円～68,000円と幅広く、また、イベント会場でもあるキャンパーダイニングでは、カウボーイカーニバルやサマーバケーション、ハロウィンパーティーなどが毎日のように行われ、子どもから大人までが日常を忘れて楽しめます。

料理はステーキやシーフードがバーベキューセットで人数に合わせて用意されています。

モーニングは無料でサービスされます。

開設の課題となるのは、建造物としての許可に関する判断が当該自治体によって判断が違うため、事前の協議にかかる時間が読めない。

しかし、本市のロケーションの説明を聞かれた横山ディレクターからは、事業として成功する可能性は高いとの評価をいただくことができました。

したがって、法令・規則等の課題を抽出し対策を進めるとともに、平成28年度の大阪府港湾地域の用途見直しによる、まちづくり計画に宿泊・保養施設として誘致することで、既存の施設と一体となった新しいまちがベイエリアに誕生するものと考えます。

以上











